

## 再 評 価 書

箇所名	浅谷越線	事業名	林道事業	課 名	治山林道課																			
事業概要	工 期	平成6年～令和8年	全体事業費	3,041 百万円(負担率：国 50%：県 50%)																				
	(下段前回)	平成6年～令和8年	(下段前回)	3,041 百万円(負担率：国 50%：県 50%)																				
<b>事 業 目 的 及 び 内 容</b>																								
<p>(1) 所在地 熊野市飛鳥町地内の国道 42 号から小又地内に延びる市道小又線を起点とし、尾鷲市との境界に近い浅谷越を経て、新鹿町地内の市道津恵線を終点とします。</p> <p>(2) 事業の目的 路網が未整備な熊野市北東部の森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、熊野原木市場への短縮ルートとなることから、運搬コストの低減などによる林業の生産性向上を図ることを目的とします。</p> <p>(3) 全体計画 ① 延 長 : 15,080m (うち起点から4,140mは既設林道を改築利用) ② 幅 員 : 4m ③ 事業費 : 3,040,780千円 (202千円/m) ④ 事業期間: 平成6年度～令和8年度 (33年間)</p> <p>(4) 利用区域の森林資源の状況 当該路線の利用区域面積は1,056ha、国有林を除いた民有林面積は864haです。利用区域内のスギ・ヒノキ人工林は882haで、人工林率は84%です。 人工林の76%が11～60年生の間伐対象の森林です。</p>																								
<b>事 業 主 体 の 再 評 価 結 果</b>																								
<p>1 再評価を行った理由 平成26年度に再評価を実施後、一定期間(5年)が経過し、事業継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき再評価を行いました。</p>																								
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>(1) 事業着手 平成6年度全体計画調査実施、平成7年度に新鹿側工区から工事着手</p> <p>(2) 進捗状況(平成30年度末の事業量) ① 開設延長 : 12,163m (進捗率 80.7%) ② 事業費 : 2,387,351千円 (進捗率 78.5%)</p> <p>(3) 課題 県予算の状況が年々厳しくなっていることから、コスト縮減と環境配慮に努めながら早期完成を目指します。</p> <p>(4) 利用区域内の森林整備の状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3" style="text-align: center;">H30調査時点</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">整備面積</th> <th style="text-align: center;">うち主伐</th> <th style="text-align: center;">うち間伐</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16～25 までの実績</td> <td style="text-align: center;">451 ha</td> <td style="text-align: center;">16 ha</td> <td style="text-align: center;">341 ha</td> </tr> <tr> <td>H26～30 までの実績</td> <td style="text-align: center;">55 ha</td> <td style="text-align: center;">2 ha</td> <td style="text-align: center;">53 ha</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">506 ha</td> <td style="text-align: center;">18 ha</td> <td style="text-align: center;">394 ha</td> </tr> </tbody> </table>							H30調査時点			整備面積	うち主伐	うち間伐	H16～25 までの実績	451 ha	16 ha	341 ha	H26～30 までの実績	55 ha	2 ha	53 ha	合計	506 ha	18 ha	394 ha
	H30調査時点																							
	整備面積	うち主伐	うち間伐																					
H16～25 までの実績	451 ha	16 ha	341 ha																					
H26～30 までの実績	55 ha	2 ha	53 ha																					
合計	506 ha	18 ha	394 ha																					

### 3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

#### 1) 周辺環境の変化

- ①熊野市は、平成17年11月1日に熊野市と紀和町の合併により誕生しました。
- ②熊野市では、平成20年度に第1次総合計画を樹立し、平成30年度には第2次総合計画を樹立し、木材流通の拡大を目標に掲げ、その実現のために行政が果たすべき役割として、林道、作業道の整備を上げています。
- ③平成24年4月に広域合併した三重くまの森林組合が、地域林業の中核的担い手として、行政機関や関係業界などと一体となって、地域の森林整備と保全を進めています。
- ④林業作業については、高性能機械が普及しつつあり、機械作業による造材や集材の効率化が進んでいます。

### 4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

#### 4-1 費用対効果分析

##### ① 前回再評価時の費用対効果分析の結果

【前回評価時】H26年度時	
B (便益)	7,766,484千円
C (費用)	4,067,377千円
B/C	1.91

##### ② 用対効果分析の結果

費用便益比 (B/C)

B/C	B (便益)	C (費用)
1.72	総便益 (B)	事業費 (C)
	7,700百万円	4,467百万円
	・木材生産便益 1,098百万円	・林道事業費 3,654百万円
	・森林整備経費縮減便益 6,236百万円	・造林事業費 813百万円
	・災害等軽減便益 28百万円	
	・維持管理費縮減便益 158百万円	
	・その他の便益 180百万円	

#### 4-2 その他の効果

熊野市内を南北に縦貫する主要道路の国道42号と国道311号、熊野尾鷲道路を連絡する道路として地域道路網を形成することにより、津波などで沿岸部の国道311号が被災した場合の迂回路などとして、地域における安全確保等の役割が期待されます。

#### 4-3 地元意向

熊野市では、林業振興や森林の適正管理を促進するとともに、避難道路としての役割もあることから事業継続を望んでいます。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

波形線形の採用、路肩の縮減、またコンクリート擁壁に替えて補強土壁工を積極的に活用し、土工量と法面保護工面積を減らすことなどによりコスト縮減を図ります。

5-2 代替案

当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はありません。

再 評 価 の 経 緯

《平成26年委員会意見》

事業継続の妥当性が認められることから事業継続を了承する。

なお、事業が長期に渡っていることから、早期の事業完成に努めるとともに、事業効果の十分な発現のために、森林整備・林業振興を目的とした施策をさらに推進されたい。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、コスト縮減を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図り、計画的な予算配備に努めながら早期完成を目指し、事業を継続いたしたい。

※再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。